

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立遊子小学校

1 自己評価書

教育目標		「ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成」			
基本方針		○自分の設定した目標に向かって努力する児童の育成に努める。 ○地域の教育資源を最大限に生かすふるさと教育の充実を図りながら、保護者や地域と連携協働することで、地域とともにある持続可能な学校を推進する。			
本年度重点目標		○ 将来の姿を共有しながら、一人一人の可能性を伸ばす ～「遊子っ子 あいうえお」の具現化～ あ 気持ちのよい挨拶や返事など、当たり前前かがみで当たり前前にかまむ態度を育てる。 い 「自分の命は自分で守る」を合言葉に、学校安全教育の充実を図り、安全・安心で充実した教育環境の整備に努める。 え 目標に向かって粘り強く取り組み、運動・勉強で達成感を味わえるように努める。 う 様々な交流・体験活動を充実させることで、いじめや不登校のない笑顔あふれる学校づくりに努める。 お 遊子地域の教育資源や人材を活用した体験活動に取り組むことで、ふるさと遊子を思いやる子を育てる。			
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		後期のみ
			・具体的な対策の実施		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	B	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B	
・児童生徒アンケート			A		
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・児童生徒アンケート	A		
(成果と課題)					
①学力調査の結果から、全国値よりも高い学年・教科もあるが、低い学年・教科もあるため心配している。2学期からの指導方法等を検討する必要がある。 ②校時の見直しを行い、1学期を過ぎしたが、休み時間がタイトでそれに合わせた対応が必要だと感じた。授業時間を大切に45分で何をどのように教えるか、ということを見直しを持って取り組まなければ、充実した教育活動が行えず、中途半端になってしまうと反省した。 ③教師や児童は読書活動について肯定的に捉えているが、保護者はそう感じていない。保護者にも伝わるような工夫や家庭での取組を促進する働きかけが必要ではないかと感じる。 ④読書をしたら、その内容についてスピーチを行うなどの、動機づけをした。 ⑤来年度の学校統合に向けて、ふるさと教育の年計を考える必要がある。					
(改善策等)					
①学力向上への手立てのため、夏休み中に分析を進め、具体的な対策を全教職員で検討し、実践する。 ②授業時間の始業とともに計画された教科の授業を行えるよう、生徒指導関係、その他の伝達事項は、昼休みや補充学習の時間などを活用し、全体の児童へ影響がないようにする。 ③ぐんぐん週間に限らず、追求したくなるネタを提供できるようにし、紹介や発表の場を持つ。 ④図書の本の貸し出し状況を全教職員や全校で確認できるように、委員会等の活動を通して「見える化」する。また、借りた本は、家に持ち帰り、家での読書時間も確保するよう児童に定期的に声を掛ける。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	A	
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。		・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。		・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。		・教師アンケート	B	B
				・児童アンケート	A	
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		・教師アンケート	/	
				・児童アンケート	B	
<p>(成果と課題)</p> <p>①高学年としての模範が示せていない。これからの課題である。</p> <p>②様々な生徒指導上の問題はあったが、迅速に対応することができた。SNSのトラブルについては、今後も注視していく必要を感じ、個々の声掛けや目配せが必要な児童がいる。</p> <p>③発達支援センターが実際に稼働し始めた。スクールソーシャルワーカーも定期的に来校してもらっている。そうしたことを保護者や児童、地域へも知ってもらい、有効な連携方法を考えたい。</p> <p>④児童の自己肯定感は全体的には高いが、個人的には気になる児童もいる。また、自己有用感を十分に感じる事ができていない児童が高学年に多い。様々な教育活動を通して、そうした気持ちを醸成していく必要がある。</p> <p>(改善策等)</p> <p>①全校体制で、高学年については、模範となる態度についてすぐさま指導や称揚をする。</p> <p>②児童の各種アンケート結果から、兄弟姉妹から暴力的な行動を取られていることや自己肯定感の低さなど気になる点が個別にあるため、今後も丁寧な聞き取りや保護者連絡をしながら、問題が深刻化しないように気を付ける。</p> <p>②SNSの使用については、御家庭の協力なくしては対応が難しい。各家庭で夜間のスマホの携帯について、また、利用についてしっかりと話し合ってもらえるように学校からも声掛けをしていく。</p> <p>③授業に関連させたり、個人面談を行ったりできるよう、スクールソーシャルワーカーと児童が関わりを持てる時間を設定する。</p> <p>④家庭や地域から「褒められる」「認められる」活動を取り入れることにより、社会の一員としての自覚を育てていけるような教育活動を展開する。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価				
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C			
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A			
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A			
③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A				
<p>(成果と課題)</p> <p>①勤務時間外の時間が長くなってしまった。テレワークができない状態であったり、個々に業務内容等の違いもあり、一律には難しいと思うが、時間外勤務の時間を短くするよう工夫する必要がある。</p> <p>②職員室がなるべく良い雰囲気になるよう気を配った。</p> <p>②課外体育について、市申合せの練習終了時刻は規定内ではあるが、児童の発達段階や実態に応じていた対応により、より効果的になると思う。小学校段階において、幅広く多様な体験をさせることは望ましいことだと思う一方、学力保障も必要で学校教育内での時間配分等について教員での話し合いが必要ではないかと思う。本校教育目標や研究目標についての共通理解を図り、限りある時間の中で、より有効的な教育内容の模索が必要だと思う。</p> <p>③教頭・複式支援員・理科支援員・地域コーディネーター等のサポート体制は進んでいる。更に、充実したサポート体制により、各教員の負担軽減に努めていきたい。</p> <p>(改善策等)</p> <p>①勤務時間外の時間をいかに短くするかを個々に検討(目標時間の設定・計画的な年休の取得等)し、一人一人が意識して業務にあたる。</p> <p>②課外活動については、教員だけの対応では専門分野外のこともあり、負担が大きい。外部講師等との連携により、より効果的で充実した指導につながると思われるので、外部講師・人材確保を目指す。</p> <p>③各職種が十分機能し、児童・職員・全体のウェルビーイングが向上するようスクールサポートスタッフの確保や学校補助員派遣等の利用可能な制度は積極的に活用していく。</p>									
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A			
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A				
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	
③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A				
			<p>(成果と課題)</p> <p>①学校運営協議会での話し合いにより地域に根差した教育を行うことができた。</p> <p>①学校運営協議会委員との連携のために会ごとに熟議の時間を取り、話し合いを行うことで委員の方々のお考えを聞くことができた。</p> <p>①公民館行事とタイアップすることで、行事への児童の参加率を上げることができた。児童にも、様々な経験をさせることができた。</p> <p>②随時HPがアップされており、学校での活動を保護者や地域の方に知っていただく一助になっている。</p> <p>・子どもたちが、自主的に意見を述べ、主体的に活動できるようになればと思う。(学校運営協議会の方より)</p> <p>(改善策等)</p> <p>①来年度以降の結出小・蔦淵小との統合にあたって、今後、どのような活動をしていくか今年度中にある程度、見通しを持って準備を進める。</p> <p>・これまで遊子小は、ふるさと教育に力を入れて取り組んでいる。今後、それを支えていただいている学校運営協議会、地域の方との連携をより充実させ、さらに、行政や専門機関や団体等ともつながりを持って、児童の教育活動の更なる充実につなげたい。</p>						
			<p>(改善策等)</p> <p>①来年度以降の結出小・蔦淵小との統合にあたって、今後、どのような活動をしていくか今年度中にある程度、見通しを持って準備を進める。</p> <p>・これまで遊子小は、ふるさと教育に力を入れて取り組んでいる。今後、それを支えていただいている学校運営協議会、地域の方との連携をより充実させ、さらに、行政や専門機関や団体等ともつながりを持って、児童の教育活動の更なる充実につなげたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満